

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 675 号	氏名	宮本 俊之
学位審査委員	主 査	弦本 敏行	
	副 査	上谷 雅孝	
	副 査	青柳 潔	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、大腿骨近位部骨折の治療成績向上のための基礎データを提供すべく、日本人の正常股関節および臼蓋形成不全を伴う股関節における大腿骨近位部髓腔形状の特性を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 日本人女性における正常股関節例および臼蓋形成不全症例の大腿骨近位部髓腔形状の特性を、3次元CT画像解析法を用いて形態学的に評価したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、臼蓋形成不全症例においては大腿骨頸部の前捻角が大きいこと、大腿骨軸と骨頭中心のオフセット値が小さいこと、頸部の最狭部幅が小さい例が存在すること、などの形態的知見を示し、従来の内固定材料を使用する際に配慮が必要であることを明らかにした。今後の骨折治療学的研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は整形外科的研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			